

第1分科会テーマ

「持続可能な地域づくりの担い手となる若者や女性が活躍できる社会の構築」

東日本大震災を契機とした高校生の活動とその後の活躍

NPO 法人みやっこベース 理事長 早川輝

1 はじめに

NPO 法人みやっこベースは2013年2月に設立(2015年法人化)しました。東日本大震災後、主体的にボランティア活動に取り組む地元の高校生たちの「地元のために」と頑張る姿を見る中で、復興の過程に関わる子どもたちこそが将来の地域を担う主役になっていくのだと感じていました。

宮古市には4年制の大学がありません。進学を機に市外、県外に行く学生が多く、高校卒業と同時に若年者人口が流出する人口構造があります。

復興の先、より良い未来をつくるには、多くの子どもたちが地域社会と関わり、いつか宮古に帰ってこられるような機会づくりが必要だと考え「みやこと育つ」というテーマを掲げて活動を開始しました。

震災から10年が経過した現在は、団体の存在意義や目指す未来を再定義しているところです。



2 具体的な取り組み

高校生サミット

設立時から毎月一回開催していた、高校生同士の話し合いの場。「宮古の好きなところ・嫌いなところ」「自分たちに何ができるか？」など地域の未来について考えるワークショップのほか、様々なテーマで高校生サミットを実施してきました。

高校生から「話し合いだけでなく実際に街に出て活動をしたい」という声が出てくるようになり、下記のようなプロジェクトが生まれ、高校生主体の活動が活発化していきました。

- ・ 高校生の目線で商店街を紹介する「商店街マップ制作」
- ・ ハンドメイドアクセサリーの自主制作・販売プロジェクト「KOMOREBI」
- ・ 岩手県の復興を担う人材発掘・育成を狙いとした「岩手県高校総会」
- ・ 高校生団体SYMによる「SYMフェス」 など



地元修学旅行

地元修学旅行は、高校生、大学生を対象にした、地元を再発見・新発見するプログラムです。進学や就職など進路を真剣に考え始める高校生や大学生世代にこそ地元の自然、仕事や暮らしを体験する機会が必要だと考え不定期に実施してきました。

これまで、15回開催し、約120人の高校生や大学生が参加し、地元での進路選択を考える機会、職業観の醸成につながりました。



みやっこタウン

みやっこタウンは、こどもだけが参加できる一日限りの架空の街です。こどもたちはハローワークで職業を選択して働き、給料として疑似通貨「ベスカ」を受け取ります。それを使って買い物をしたり、遊んだりします。また、投票や地域活動など、市民になりきって、楽しみながら様々な活動を行います。

実施に当たっては、市内関係団体と実行委員会を設立し、これまで4回開催し、のべ709人の児童が参加しました。協力企業・団体の数も50まで増えるなど、回を増すごとに関わる人が増えています。



3 活動等の成果

活動開始から8年が経ち、当時高校生だったメンバーも20代半ばになりました。その中には市役所に就職した者、地域おこし協力隊としてUターンした者、リモートワークで宮古を支える者などがいます。大人になってからも様々な形で地域に関わり、宮古の未来を創っています。



4 今後の課題

これまでの活動は目の前のニーズに対応するような形で展開してきました。

今後は、これらの活動が一過性で終わらないよう、地域の中での団体の存在意義や目指す未来の明確化、市民から共感、応援してもらえるような組織体制づくりが急務です。

また、活動を持続可能なものにするために事業化や仕組み化を行う必要があり、特に人員や資金源の獲得、地域内での協力体制づくりが課題です。